

文化理解を深めるための教材開発と実践

大川 光基

1. はじめに

現在の高等学校の『学習指導要領』には指導目標について以下のように記述されている。

「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向を理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。」

英語教育を進めるうえで、言葉と関わりのある文化への理解を深めることが現行の学習指導要領において指導目標であり、平成25年度から実施される新学習指導要領においても言語や文化に対する理解が指導目標に明記されている。また、教材を選択する際の注意事項として、

「題材を取り上げるにあたっての配慮事項としては、英語を使用している人々だけでなく、他の言語を使用する人々に対しても理解を深めるとともに、日本人に対しても理解を深めることをねらいとするような題材などから適切に選択して取り上げることが必要である。」

ゆえに、高校生に他文化理解だけでなく、自文化理解を促すような教材が必要になってくる。本稿ではそのための私が作成した教材を使っての実践を報告したい。

2. 文化理解のための文化題材のあり方

題材内容を検討するにあたってまず、必要なことはその素材が教育目的にかなったものであるか、という視点である。この点において私は現在使われている中学校英語検定教科書18冊を分析対象とし、異文化理解教育の視点から文化題材を考察した。私は中学校英語教科書における文化題材の意図・ねらいを他文化理解、自文化理解、比較・対照、国際理解の4つに分類した。その結果からわかったことは他文化理解が73.5%で圧倒的に多く、その次に自文化理解(17.7%)、比較・対照(13.3%)、国際理解(4.4

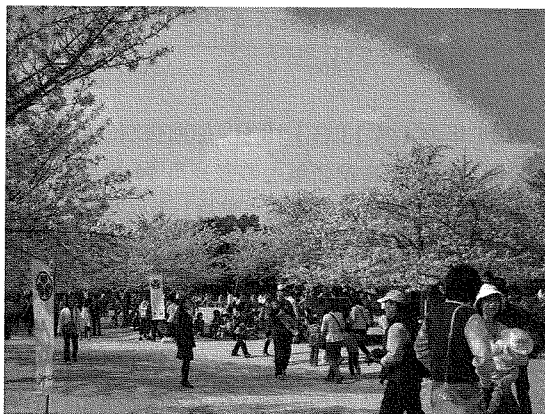
%)であった。やはり自文化理解題材や比較・対照に関する題材が少ないのは明らかであろう。川島(2005)は中学校の検定教科書にある会話を数量的に分析し、日本の文化を発信する会話が極端に少ないことを指摘している。その点を補助するには身近な地域教材を教師が作成し、生徒に教えることも有効な活動だと思われる。吉田(2006)はその成功例を報告している。本稿において私はすでに現行の中学校英語教科書を学習した高校生を対象に自文化理解と比較・対照に関する題材を作成し実践している。

3. 文化題材の開発と実践

以上をふまえて、文化理解を深めるための題材を私なりに作成し、実践したので報告したい。

(1) 桜

この教材は桜を簡単に説明し、日本人がどのように桜が咲いて散るのを楽しむかを書いている。また、桜は国花で特別なものであり、おもちや校章などのいろんな目的で使われていることも記している。それに対し、イギリスにはたくさんの庭があり、地域ごとに国花がある。そしてバラや他の花の楽しみ方が日本人とは異なることを示している。日本人とイギリス人では花の鑑賞のしかたが異なり、同じ花であっても文化が違えば扱い方が異なることを学ばせることを目的とした題材である。



We see cherry trees every spring all over Japan. The cherry blossom is the national flower of Japan. The Japanese people have admired all kinds of flowers and made poetry for a long time. Cherry blossoms have become popular with many Japanese people for a long time. Now they have a custom of having parties, eating, and drinking under cherry blossoms. The flowers bloom and drop. They enjoy the changes of the flowers. They remember the changes of their lives.

They use the flowers for other purposes. They use the flowers for rice cakes, the Japanese tea, and so on. They have a good smell. They are also used as symbols of junior high schools and high schools because they have a good image of life.

On the other hand, there are many gardens in Britain. Many British people visit famous gardens and enjoy roses and other flowers. There are four main islands in Britain. Each area has each national flower. There are four main national flowers in Britain. They enjoy varieties of flowers, but they have no custom of having parties under flowers like the Japanese. Cherry blossoms are not so special for them. They enjoy the beauty of various flowers.

(問1) 日本人はどのように桜を楽しみますか。

(問2) 日本人とイギリス人との桜の観賞の違いを説明しなさい。

2011年の4月13日、18日、20日に授業時間の3時間を使い、高校2年生の普通科14名を対象に上記の自主教材による授業を実施した。生徒は英語が苦手な異文化を知ろうとする意欲が低い者が多い。初めに全文をプリントに筆記させ、それから英文の意味を考えさせ、桜に関する文化的な情報を生徒に与えながらすすめた。最後に本文に関する質問をして本文の内容を確認し、アンケートを実施した。ア

ンケート結果は以下のとおりであった。

(アンケート)

- A. この題材を読んで、文化について理解が深まりましたか。
- | | |
|-----------|-----------|
| 5…1人(6%) | 4…3人(21%) |
| 3…9人(64%) | |
| 2…1人(7%) | 1…0人(0%) |
- B. この題材はおもしろかったですか。
- | | |
|-----------|----------|
| 5…1人(7%) | 4…1人(7%) |
| 3…10人(7%) | |
| 2…2人(14%) | 1…0人(0%) |
- C. この題材を読んで、イギリスと日本の文化の違いに気づきましたか。
- | | |
|-----------|-----------|
| 5…1人(7%) | 4…6人(43%) |
| 3…7人(50%) | |
| 2…0人(0%) | 1…0人(0%) |
- D. この題材を読んで、もっと文化の違いについて知りたいと思いましたか。
- | | |
|-----------|-----------|
| 5…1人(7%) | 4…3人(21%) |
| 3…9人(64%) | |
| 2…1人(7%) | 1…0人(0%) |

※5(とても) 4(少し) 3(どちらでもない)
2(あまり) 1(いいえ)

Aの質問から約3割がこの題材の学習を通じて、文化の理解が深まったようであるが大半はどちらとも言えないという感想であった。生徒にとっては桜についてはなじみがあるものの、その歴史や鑑賞のしかたなどはあまりわかっていないようであった。一部の生徒は学習することによって理解が深まったように思われる。Bの質問から一部の生徒はおもしろいと感じているが、大半の生徒はどちらでもないという感じであった。つまり、桜についてなじみはあるものの、何人かは格別興味があるというわけではないということがわかった。Cの質問については半数がイギリスと日本の文化の相違について気づいたようである。実際、大半の生徒はイギリス人の花の鑑賞のしかたについては知らないようであった。だからといって半数近くが「どちらでもない」と答えたことからわかるように十分に日本とイギリスの文化の差異がわかったと言えない生徒が多いのも事

実であろう。今後の学習の課題である。Dの質問については約3割が肯定的な答えを示した。今回の実践によって興味が高まった生徒がいるが、依然意欲が低い生徒がいるのも事実であるのでより興味をわくように指導し、教材を開発する必要があるであろう。全体的に見ると肯定的な反応もあるが、どちらでもないと答えた生徒が多く、今後も生徒の意欲を高め、より教材開発をする必要があるであろう。

(2) 日本の温泉とヨーロッパの温泉の比較

この題材は日本とヨーロッパの温泉の違いを記している。日本は火山が多く、昔から温泉が発達し、大衆風呂としての機能が強いが、ヨーロッパでは日本とは環境が違い、あまり温泉が発達せず、大衆風呂ではなく、健康のために利用する機会が多い。また、道後温泉という地元の情報を取り入れて生徒に親しみやすいように工夫した。

次の例は中学生のアキとALTとしてイギリスから日本に来日しているエリックとの会話である。



Aki : Hi! How have you been? Have you visited some places in Ehime?

Eric : Yes, I have. The other day I visited Matsuyama Castle and went shopping in Okaido.

Aki : Did you enjoy yourself?

Eric : Yes, I did. It was a lot of fun.

Aki : Have you ever been to "Dogo-onsen"?

Eric : Not yet. I have heard of it. What is it?

Aki : It is a public bath and a symbol of Matsuyama. It was built in 1894. It is one of the oldest hot springs in

Japan. Many people go there, take a bath, and wash their bodies every day.

Eric : Really? Do they take off their clothes and wash their bodies in a public place?

Aki : Yes, they do. It is a Japanese culture. In Japan there are a lot of volcanoes, so we can get hot water from many places. Do you have such a custom?

Eric : Well, we have some hot springs in my country and other places in Europe. But we use them differently. Sometimes we drink hot water in the hot springs for our health. Hot springs have also developed as a resort.

(問1) 道後温泉について説明しなさい。

(問2) 日本の温泉とヨーロッパの温泉の違いを説明しなさい。

(問3) 本文を読んで感想を書きなさい。

2011年の12月13日と2012年1月13日に授業時間の2時間を使い、高校2年生の特用林産科16名を対象に上記の自主教材を実施した。生徒は英語が苦手なものが多く、初めに全文をプリントに筆記させ、それから英文の意味を考えさせ、温泉に関する文化的な情報を生徒に与えながらすすめた。また、冬休みをはさんだので、休み課題として学習するように言った。最後に本文に関する質問をして本文の内容を確認し、アンケートを実施した。アンケート結果は以下のとおりであった。

(アンケート)

A. この題材を読んで、文化について理解が深まりましたか。

5…3人(19%) 4…5人(31%)

3…4人(25%)

2…2人(13%) 1…2人(13%)

B. この題材はおもしろかったですか。

5…3人(19%) 4…4人(25%)

3…5人(31%)

2…2人(13%) 1…2人(13%)

C. この題材を読んで、イギリスと日本の文化の違いに気づきましたか。

5…5人(31%) 4…2人(13%)

3…5人(31%)

2…2人(13%) 1…2人(13%)

D. この題材を読んで、もっと文化の違いについて知りたいと思いましたか。

5…3人(19%) 4…3人(19%)

3…5人(31%)

2…3人(19%) 1…2人(13%)

※5(とても) 4(少し) 3(どちらでもない)
2(あまり) 1(いいえ)

Aの質問から約半数がこの題材の学習を通じて文化の理解が深まったようである。生徒にとって道後温泉はなじみがあるものの、その歴史やヨーロッパの温泉との違いなどはあまりわかっていないようであったので、学習することによって理解が深まったように思われる。Bの質問から約4割がおもしろいと感じているが約3割はどちらでもないという感じであった。温泉についてなじみはあり、興味がわくものが多いが、どちらでもないものもいることがわかった。アニメやゲームなどの生徒が興味のわく題材を作るのも効果的であるかもしれない。Cの質問については半数近くがヨーロッパと日本の文化の相違について気づいたようである。実際、大半の生徒はヨーロッパの温泉については知らないようであった。だからといって3割が「どちらでもない」と答えたことからわかるように十分に日本とヨーロッパの文化の差異がわかったと言えない生徒が多いのも事実であろう。Dの質問については約4割が肯定的な答えを示した。今回の実践によって興味が高まった生徒が多かったようには思われるが、依然意欲が低い生徒がいるのも事実であろう。全体的に見ると肯定的な反応が多く、否定的な反応を示した生徒は少なかったが、どちらでもないと答えた生徒も3割程度いて、今後もより教材開発をする必要があるだろう。

また、選択式質問だけでなく、自由記述で感想を書かせた。以下のとおりである。

(生徒の感想)

- ・松山の歴史について少しわかりました。
- ・道後にあんまり行かないので、家族で行きたいと思いました。
- ・道後温泉に行ってみたいと思った。
- ・道後温泉のことについて初めて知ることだったので、よかったです。
- ・道後温泉のことについてよく知ることができ、一度行ってみたい気持ちになりました。
- ・愛媛のことがわかると思った。
- ・日本とヨーロッパで温泉にこれだけの差があるのだから、アメリカやアフリカとも違いがあるんじゃないかと思いました。
- ・日本の温泉文化とヨーロッパの温泉文化の違いがわかった。

生徒の感想からわかるように、大半の生徒が肯定的な感想を書いていた。道後温泉という地元では有名な観光名所であっても、生徒にとっては文化的な要素は知らないことも多く、今回の授業でその理解を深めることができたと思われる。また、実際に道後温泉を訪ねてみたいという生徒もいて、今後日本文化を発信できる生徒が増えることを期待するだけである。

参 考 文 献

- 大川 光基(2011).「中学校英語教科書における文化題材と日本文化に題材の研究～異文化理解の観点から～」MEDIA, ENGLISH AND COMMUNICATION No. 1, 87-103.
- 川島 智幸(2005).「中学校英語教科書分析―発信型の英語の観点から―」『英語教育』2005年第4号, 5-11.
- 文部省(1999).『高等学校学習指導要領(平成11年12月)解説―外国語編―』
- 吉田 敏明(2006).「地域英語教材“15 Stories of Saitama-ken”(Ver.2)の開発と活用」STEP BULLETIN 18, 177-195.

(愛媛県立中山高等学校教諭)